

[平成18年度普及に移した技術]

[普及に移す技術名] 自生草花チョウジソウとエチゴトラノオの育苗および定植時の窒素成分量

[要約] 育苗時の窒素成分量は、肥効調節型肥料180タイプ(14-12-14)で、用土1L当たりチョウジソウで2.0g、エチゴトラノオで1.5gが適する。定植時の窒素成分量は、緩効性IB化成(12-12-12)で、2品目ともa当たり2.5kg~3.0kgが適する。

[キーワード] 自生草花、チョウジソウ、エチゴトラノオ、育苗、定植時、施肥量

[担当] 福井園試・花き研究グループ

[連絡先] 0770-32-0009、電子メール enshi@pref.fukui.lg.jp

[分類] 参考

---

[背景・ねらい]

地域の気象風土に適応した自生草花のチョウジソウ(絶滅危ぐ類)とエチゴトラノオの挿し木増殖技術は明らかにされたので、その後の育苗と定植時の施肥量について明らかにする。

[技術の内容・特徴]

1. 育苗時のポット苗への窒素成分量は、肥効調節型肥料180タイプ(14-12-14)を利用すると、次年度の吸枝数と経済性より、用土1L当たりチョウジソウで2.0g、エチゴトラノオで1.5gが適する(表1、表2)。
2. 定植時の窒素成分量は、吸枝数や切り花品質から判断すると、チョウジソウとエチゴトラノオともa当たり3.0kgが適する(表3、表4)。
3. 定植後の肥料の種類は、緩効性のIB化成(12-12-12)が優れる。

[技術の活用面・留意点]

1. 鉢上げ用の用土は、水稻床土覆土用(無肥料)とピートモスを容積比2:1で混合する。
2. チョウジソウは、6月~8月までの間、強日射で葉焼けするので、80%の遮光資材で被覆する。
3. エチゴトラノオは、土壌水分が不足すると、葉先枯れ症が発生するため、水分管理に注意する。
4. エチゴトラノオは、秋に草丈が短い2番花が収穫できる。

[ 具体的データ ]

表1 チョウジソウのポット苗への窒素施肥量が初期生育に及ぼす影響

用土当り 窒素 施肥量	11月10日調査			2月16日調査
	草丈 (cm)	茎径 (mm)	葉数	吸枝数
0.75g/l <sup>1)</sup>	4.1	0.8	11.9	1.0
1.0g/l <sup>1)</sup>	4.6	0.8	13.0	0.9
1.5g/l <sup>1)</sup>	3.7	0.9	12.5	1.1
1.5g/l <sup>2)</sup>	11.9	1.3	18.3	1.0
2.0g/l <sup>2)</sup>	11.2	1.2	17.6	1.3
2.5g/l <sup>2)</sup>	11.5	1.3	18.7	1.1

1)は平成15年8月4日、2)は平成16年7月26日に7.5cm鉢に鉢上げ、その年以降の上記日に調査。用土は水稻床土覆土用とピート土を容積比2:1で混合。肥効調節型180タイプ<sup>®</sup> (14-12-14)を使用。茎径は側芽の下から3cmを測定。

表2 エチゴトラノオのポット苗への窒素施肥量が初期生育に及ぼす影響

用土当り 窒素 施肥量	11月10日調査			2月16日調査
	草丈 (cm)	茎径 (mm)	葉数	吸枝数
0.75g/l <sup>1)</sup>	16.5	1.7	19.5	0.4
1.0g/l <sup>1)</sup>	15.4	1.6	18.4	0.6
1.5g/l <sup>1)</sup>	18.9	1.6	21.5	1.8
1.5g/l <sup>2)</sup>	25.2	1.9	11.9	1.9
2.0g/l <sup>2)</sup>	24.7	2.0	13.3	1.8
2.5g/l <sup>2)</sup>	28.0	2.0	12.5	1.7

耕種概要や調査等は表1と同様。

表3 定植時の窒素成分量と肥料の種類がチョウジソウが生育に及ぼす影響

窒素 成分量	肥料の 種類	6月16日調査			10月15日調査			11月8日調査
		草丈 (cm)	節数	茎径 (mm)	草丈 (cm)	節数	茎径 (mm)	吸枝数
1.0kg/a	A	27.4	32.3	2.4	71.4	64.9	3.5	2.8
	B	25.4	28.8	2.5	73.6	55.7	3.3	2.6
2.0kg/a	A	27.1	31.8	2.5	74.1	62.2	3.5	2.5
	B	30.6	34.5	2.8	80.6	65.3	3.6	2.3
3.0kg/a	A	27.8	30.3	2.4	71.5	63.2	3.4	3.3
	B	27.6	32.5	2.8	72.4	66.3	4.0	4.2

肥料はA：肥効調節型180タイプ<sup>®</sup> (14-12-14)、B：IB化成 (12-12-12)を使用。定植時期：平成16年4月5日 栽植法：120cm (3条植え) × 株間15cm 白黒マルチ栽培 茎径は地際から5cmを測定。

表4 定植時の窒素成分量と肥料の種類がエチゴトラノオの開花と切り花品質に及ぼす影響

窒素 成分量	肥料の 種類	開花日 (月/日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	節数	茎径 (mm)	花穂長 (cm)
1.0kg/a <sup>1)</sup>	A	7/12	47.6	30.3	14.9	5.0	11.1
2.0kg/a <sup>1)</sup>	A	7/15	52.2	35.6	14.6	5.1	10.8
	A	6/26	43.5	26.8	17.0	4.0	11.2
2.0kg/a <sup>2)</sup>	B	6/21	48.4	32.4	17.1	4.6	11.2
	C	6/30	40.6	24.7	16.8	4.3	10.4
	A	6/22	46.6	27.3	18.4	3.7	11.3
3.0kg/a <sup>2)</sup>	B	6/18	51.2	37.0	17.4	4.8	12.9
	C	6/21	48.0	35.5	17.0	4.8	11.5

1)は平成15年3月31日、2)は平成16年4月5日に定植。茎径は中位を測定。肥料AとBは表3と同様で、Cは有機化成 (12-12-12)を使用。栽植法：120cm (3条植え) × 株間15cm。白黒マルチ栽培

[ その他 ]

研究課題名：中山間地に適応できる高収益性自生草花の増殖・商品化技術の開発

研究期間：2001～2005年度

研究担当者：小森治貴、坂本浩